

網羅的な検査で早期発見も可能

腫瘍マーカー

肺がん	肝細胞がん	前立腺がん	食道がん	卵巣がん	膵臓がん
CEA(腺がん)	AFP	PA(PSA)	CEA	CA125	CA19-9
SCC(扁平上皮がん)	PIVKA-II	PSA-F/T比(オプション)	SCC	SLX	CEA
シフラ(扁平上皮がん)	肝内胆管がん	PSA-ACT(オプション)	TPA	CA19-9	DUPAN-2
NSE(小細胞がん)	CA19-9	γ-Sm	抗p53抗体	子宮内膜がん	エラスターゼ1
Pro GRP(小細胞がん)	CEA	膀胱がん	胃がん	CA125	大腸がん
SLX(腺がん)	胆のう、胆道がん	CEA	CEA	TPA	CEA
CA19-9(腺がん)	CEA	TPA	SCC	子宮頸部がん	CA19-9
乳がん	CA19-9	NMP22(尿で測定)	AFP	SCC	抗p53抗体
CEA	DUPAN-2	甲状腺がん	CA19-9	TPA	便潜血(便で測定)
CA15-3	睾丸がん	CEA	腔扁平上皮がん	外陰がん	
抗p53抗体	AFP	サイログヒブリン	SCC	SCC	

※麻布医院での検査項目を元に、編集部で作成。1回の血液検査でほとんどの腫瘍マーカーをチェックできる。

血液検査でがん細胞が出ず
異常なたんぱくを調べる

腫瘍マーカーとは、血液、尿、便などを調べて、正常な細胞が分泌しない、がん細胞がつくりだす異常なたんぱくをチェックする検査。がんによって分泌するたんぱくが異なるので、非常にたくさん種類がある。治療効果の確認や再発予防など、フォローアップに使われるイメージが強いが、がんの早期発見にも役立つ。B型・C型慢性肝炎を患っている場合は、肝臓がんの早期発見のためにAFP、PIVKA-IIという2種類の腫瘍マーカー検査がすすめられる。

「私のクリニックでも、腫瘍マーカーの数値から早期の肝臓がんを発見したケースがあります。肝臓がんのスクリーニング検査として非常に有用です。腫瘍マーカーでの診断が難しいのは、種類がたくさんあり、診断結果を網羅的に理解している医師が少ないから。1回の血液検査で腫瘍マーカーを網羅的にチェックできる簡便さは魅力(尿や便の検査のほか必要に応じて胃がんのリスク検査や子宮頸がんの細胞診検査も行う)。予防的検査としてもっと認知されて欲しい(麻布医院／高橋弘院長)